依田林業新聞

枝打ちの大切さと危険

植栽してから 10～15 年経つと苗木は、4～8m程度まで生長して、枝もついてきます。この枝はまわり木と重なり合い、放っておくと林の中を暗くさせたり、枯れた枝などから害虫が侵入してきやすくなります。そこで枝を付け根から切る「枝打ち」という作業を行います。枝打ちをする時期は、樹木の生長が止まる秋～冬にかけて行われます。
枝打ちは間伐とともに林内の光環境を改善し、健全性にもプラスになります。
林内の歩行、見通しをよくし、林内作業の能率向上を図ることができます。さらに、森林火災においての拡大火災を防ぐ働きもします。
枝打ちの大切さを学べることで、必要性を知ることができます。しかし、枝打ちをする作業に対しての危険も学ばないといけません。枝打ちの道具は特別なものは必要としません。しかし、どうしても高所作業になってしまいます。2mという高さから転落した場合でも、頭から落ちる可能性が高く大変危険です。安全帯の着用は必ずしているとは思いますが、一つ一つの確認を忘れず、フックのかけ忘れや、チェンの緩みなどのチェックを怠ることなくしていきましょう。高所作業する場合は危険予知を認識し、安全装備をきちんと身に着けて枝打ちを行うことが大切になってきます。大切な作業だからこそ、安全に行えるよう、大切な命を守っていきましょう。

発行所
（有）依田林業
塩山事務所
総務部

山火事の怖さを知る大切さ

山火事の怖さは、火の粉が飛散し同時多発的に着火延焼すること、延焼スピードが速いこと、消火活動が困難なことが挙げられる。大規模な火災に発展して、地域社会に多大なる影響を与えることから、山火事を発生させない事が大切。タバコの投げ捨て、焚火、火入れの不始末を徹底すること。山の命、人の命、どちらもかけがえのない存在である事を忘れないでほしい。
ニュースで問題になっている、オーストラリア火災。今回燃えたのは 1,000 万ｈa。昨年は 5,000 万 ha 燃えたそうだ。オーストラリアの学者は、森林火災の 13%は放火で、37%は放火の疑いがあると指摘している。しかし、2008 年の調査によると、「山火事の 85%が人為的な影響だった」という。一部メディアでは、温暖化が進んでいて「地球の未来にはこのような事態が待ち受けている」と悲観的に伝え、国民の恐怖心を煽っている。しかし、焼失面積の大きさを基準に、異常気象とはいいきれない。残念ながら、オーストラリアにとって森林火災は、毎年起きる“風物詩”のようなものになっている。子供の火遊びや、バーベキューなどの火災が問題になっているのに、火災の原因を究明することなく、一方的に地球温暖化が原因であるかのように報じるやり方は、典型的な印象操作と言える。人間がしっかりと火を管理すること、そして、荒れた森を管理し、人間と自然の共生に向けた対策を呼び掛けることこそが一番大切なことだ。

今月の一言

辛い時こそ自分の長所を見失うな

林業「緑の雇用」とは

今、林業は慢性的な人手不足が全国規模で発生しています。その理由として業界最盛期時代に就業していた人材の高齢化と業界全体の縮小による賃金の低水準化など、若年層の林業就業者が確保できないことにあります。そんな林業を活性化させるために政府が打ち出した「緑の雇用」について説明します。「緑の雇用」とは林業界の慢性的に悩む山村地域や森林組合を救済すべく、特に若年層の新規就業者を確保・育成するために国が推奨している雇用制度です。林業とは無縁の生活を送ってきた人、林業を知らずに就職しようとしている人に対し、着実にキャリアを積める道筋を作ることになります。林業大学などで研修を受ける人に助成金などの給付も実施しています。林業のプロを育成し、最短で一人前になれるように、これからの林業を担う人材を開拓できる可能性が広がっていくのです。